

新聞用紙を運ぶ船

新聞は、ニュースや生活情報を毎日たくさんの人に伝える、重要な印刷物です。新聞の印刷になくてはならない、大量の用紙の流通に、船が大きな役割を果たしています。

新聞用紙は、日本の各地にある製紙工場で作られています。都道府県別の生産量をもっとも多いのは、北海道です。北海道から新聞印刷所まで、新聞用紙が船で運ばれる流れをみていきましょう。

●新聞用紙の流れ●

新聞用紙が新聞印刷所に届くまでには、おおざっぱに4つの工程があります。

- ①国内外から紙の原料になるチップ（細かく削った木片）を集めると同時に、古紙を製紙工場に集める。
- ②チップと古紙からパルプをつくり、巻取紙ともよばれる新聞用紙を生産。
- ③船に積みこんで全国の主要な港へ。
- ④各地の新聞印刷所に巻取紙を運ぶ。

●日本の製紙業●

- 日本では奈良時代から、和紙をつくっていました。明治初期に欧米の製紙技術が導入され、明治20年代から急速に洋紙の生産量が伸びていきました。
- 製紙業が特に発展したのは、北海道や静岡県。洋紙の生産に必要な木と豊かな水に、めぐまれていたからです。
- 現在は、チップの輸入や古紙の再利用などにより、全国で紙製品が生産されています。そのうち約20%が新聞用紙です。

製紙会社では紙の原料となる木を自分たちでも植林しているよ

東京に集められた古紙をRORO船で北海道に持ち帰ってリサイクル！

列車とトラックで全国へ

古紙はトレーラーで船へ。

新聞用紙の原料の75%は古紙

新聞用紙の原料の約75%は古紙パルプ、残りがチップからつくられるパルプです。チップは国内・海外の両方から集めています。北海道の製紙工場では、道内で集められた木材も利用します。

海外から専用船で、チップが運ばれる。

首都圏へ新聞用紙を運ぶ船

製紙工場で作られた用紙はトレーラーに積み、港からRORO船に乗ります。1本1.3トンもの巻取紙をいっぱい乗せて、首都圏へ出発！

RORO船 神丸丸

取材協力・写真提供/日本製紙(株)、栗林商船(株)

*新聞用紙の流通ルートは製紙会社によって異なります。

RORO船がいちどに運べる新聞用紙の量は…

巻取紙 2000本

70000枚×2000本 → 140000000枚
巻取紙1本からできる新聞の枚数 (1億4千万枚)!

主要都市の港に着くと、トレーラーが下船して、そのまま印刷所まで用紙を運びます。帰りには古紙が積みこまれます。

わかったこと

新聞用紙の原料には古紙がたくさん使われていることに、おどろきました。役目を終えた紙も、正しく分別して出せば、新たな命がふきこまれるのですね！